1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170800177			
法人名	有限会社なないろファミリー			
事業所名	グループホーム虹の里伊自良			
所在地	岐阜県山県市松尾344-5			
自己評価作成日	平成23年8月10日	評価結果市町村受理日	平成23年9月20日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170800177&SCD=320&PCD=21

【評価機関概要(評価機関記入)】

な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

	評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと			
所在地 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル					
	訪問調査日	平成23年8月26日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護師1名、准看護師3名を配置し、医療機関とも連携しながら常に利用者の健康状態に留意しつつ、快適な日常生活に向け医療、介護の両面から支援しています。30代から70代までと幅の広い職員を擬似家族のように配置し、利用者に安心感を得られるように配慮しています。昔懐かしい雰囲気のある場所で、利用者と家族との橋渡しをしながら癒しのケアを目指します。自家菜園で栽培した野菜を収穫しながら近所の方と会話したり、畑を近所の方に助けてもらったり、皆仲よく一緒にお散歩したりと、そんなのんびりした暖かなホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年に開設し、シンボルである虹の形をしたアーチが屋根にある平屋建ての事業所である。シンボルのアーチは、地域に開かれた事業所の存在と共に、地域に根付いている。管理者をはじめ、経験豊かな看護師を中心に、医療・介護を充実させ、安心のある暮らしを支援している。利用者の重度化が確実に進む中で、家族の応援を得ながら、癒しのケアにも取り組んでいる。職員の入れ替わりはほとんどなく、利用者との馴染みの関係を大切にしている。管理者と職員は、笑顔を絶やさず、利用者の気持ちに寄り添いながら、その人らしい自立した生活を支えている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
	項目	↓該讀	取り組みの成果 当するものに〇印		項目	↓該∶	取 り 組 み の 成 果 当する項目に〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	0	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	0	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

= 1	C 9 o J				
自	外	項目	自己評価	外部評価	
己	部	人	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.I	里念し	こ基づく運営			
	•	所理念をつくり、管理者と職員は、その理念 を共有して実践につなげている	「ご本人、ご家族のニーズを第一とし、個性を尊重した自立支援」を理念とし、2~3カ月に一回のミーティングにて、この理念に基づいた介護が提供できるよう職員全員で確認している。	地域との繋がりを重視して、「個性を尊重した自立 支援」を理念としている。定期的な会議で、職員全 員が理念を共有している。馴染みの関係を大切 に、自立した生活ができるように実践している。	
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩のときなどに言葉を交わせる関係を築いている。また、お祭りや絵手紙展に お誘いいただいている。	地域の各種行事に参加し、親密に交流している。 近隣とは、日々言葉を交わし、野菜などの差し入 れは日常的である。演芸会(落語会)などのホー ムのイベントには、地域の人や子ども達を招いて いる。地元の中学生の1日体験学習も受け入れ、 その際には、保護者にも見学してもらった。	今後もさらに、保育所・小学校・中学校との交流に力を入れていく方針であり、その展開に期待したい。
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	2か月に1回開催される地域ケア研究会に 職員が参加し、グループワーク等を通して ホームでの経験等の話をできる機会を得て いる。		
4	(3)	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービス 向上に活かしている	毎回近況や防災設備の整備状況、防災訓練状況等の報告を行い、利用状況や活動内容について意見をいただいている。改善点については、できる限り早く対応するように努力している。現在、外回りの環境整備について指摘されており、対策中。	会議は、自治役員・近隣住民・行政・民生委員・家族の代表が参加して2~3月に1回開催している。 防災対策や設備の改善などで意見を交わしている。討議の結果は、できる限り運営に反映させている。	
5	(4)	業所の実情やケアサービスの取り組みを積		市へは、運営状況を定期的に報告している。困難な事例や防災設備について相談し、助言を得るなど、何でも話し合える関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準に おける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	ング時に内容を伝達し全員が理解できるよう にしている。しかし、身体保護を優先せざる	職員は、身体拘束の意義を良く理解し、拘束のないケアを行っている。玄関もできる限り施錠をしないよう、職員の見守りやケアの方法を工夫し、努力している。安全上の保護は、家族の納得と理解を基本にしている。	
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法に ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事 業所内での虐待が見過ごされることがないよ う注意を払い、防止に努めている	ついては、無意識に行われている可能性も		

		グループホーム虹の重ザ日長 I	4 7 5 7 7	₩ ±0=±/π	1
自自	外	項目	自己評価	外部評価	
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それらを 活用できるよう支援している	財産管理等の相談を受けた場合は、成年後 見制度の紹介、社会福祉協議会等への橋 渡し等を行っているが、手続きが煩雑で制度 として使いづらいとの反応がある。		
9		〇契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利 用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分 な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度改定に伴う加算等について は、文書または口頭で、家族に十分説明し、 理解を得るよう努めている。		
10	(6)	〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている	している。この中で、ご家族の思いとホーム	家族の面会時や電話で意見や要望を聞いている。家族からは、タバコの適正な管理についての意見があり、喫煙チェック表を作成して、健康に配慮した支援に繋げている。	
11	(7)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	を傾け、提案を尊重し、できる限り形にして、 意欲が持てるようにしている。時には、職員	管理者は、定例の会議や個別に職員の意見を聞いている。運営に関する提案や、個別ケアのあり方についての意見が出ている。意見・提案等は、職員のやる気に繋がるように、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働 けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自主性を重んじつつ、職員各人の状況を把握しながら、待遇改善に努めている。 また、ミーティングを通じて運営に関する意見聴取したり、管理者側が研修に参加して 改善策を模索している。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニン グしていくことを進めている	ケアの質向上や当ホーム独自のケアにつながるアイデアや提案については、研修への参加や研究を積極的に勧めている。また、介護福祉士を目指す職員には、資格が取得できるよう支援している。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を 向上させていく取り組みをしている	山県市介護事業者連絡協議会、山県市内のGH連絡会、岐阜県GH協議会等に参加するとともに、医療依存度の高いご利用者の受け入れに際しては、病院や他の介護施設に見学を依頼するなど交流や情報収集に努めている。		

自	外	ラル・ラホーム型の主げ日長 項 目	自己評価	外部評価	
2	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II . 3	安心と	ること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが	事情が許せば入所前にご自宅や病院、施設等に伺い、安心につながるように面談を行っている。入所後も、ご本人とできるだけ会話を持ち傾聴することにより、ニーズを拾い上げるようにしている。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている	可能であれば、ご自宅や職場等に伺って、 ご家族の状況(家族関係や仕事、ご家族の 身体状況等)を傾聴し、できる範囲でニーズ に応えるようにしている。		
17		サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18			当ホームは、要介護1~5と幅広いため、個別ケアを中心としている。自立度に応じた活動やケアを通じて職員との信頼関係を築いている。また、介護度に拘わらず、できるだけ多くの言葉掛けを行い、ともに過ごす時間を大切にしている。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共 に本人を支えていく関係を築いている	入所時には、ご本人、ご家族ともに混乱してことも多く、家族関係に亀裂が生じている場合もあるが、時間の経過とともに関係修復できることも多い。入所後の様子を伝え、まずご家族と職員間の信頼関係を構築すべく傾聴の姿勢を大切にしている。		
20	(8)		から加立することのないよう又抜している。 行きつけのお店や喫茶店など、社会とのつ かがりを継続できるよう。外出の機会を設け	友人や知人がホームを訪れており、居室内でゆっくり談話できる環境づくりをしている。馴染みの商店や、喫茶店に、職員と共に外出し、利用者の希望を受け入れ、関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている	普段の生活を通じて、利用者同士の関係を 把握し、相性のよい利用者同士を隣の席に して会話を楽しめるような雰囲気作りに配慮 したり、時にはトラブル回避のため距離を置 いたりして、支援している。		

自	外	7F D	自己評価	外部評価	
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまで の関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に 努めている	入院や他施設への移動に際して、申し送りを行い、また介護情報提供書を作成し、本人が新たな環境にいち早く順応できるよう支援している。他施設になじめるまで、ご家族のフォローを継続する場合もある。		
Ш.	その		メント		
23		把握に努めている。困難な場合は、本人本 位に検討している	る。例えば、喫茶店に行きたい、たばこを吸いたい、買い物等の要望についても対応し	利用者との会話や行動から意向や思いを把握している。意思表示の困難な人は、家族から話を聞いて対応している。把握した思いは、家族や職員間で共有し、その人らしい暮らしに役立てている。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生 活環境、これまでのサービス利用の経過等 の把握に努めている	紹介者(主にケアマネ)やご家族からの情報や、入所時や入所後の会話の中から、利用者各人の歴史等の背景の把握に努め、フェイスシートの充実等を通じて、サービスに活かし、これまでできていたことを永く続けられるように工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	できていること、最近できなくなったことなど、 申し送りノート、個人記録、ミーティングを活 用して情報を共有し、職員全員が利用者各 人の状況を把握できるようにしている。		
26		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあ り方について、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイディアを反 映し、現状に即した介護計画を作成している	の都度、ケアプランの見直しを行い、ご本人 やご家族の意向やそれぞれの意見、また	毎月のケア会議で、一人ひとりの状態について、振り返り、気づきやアイディアを取り入れた、介護計画を作成している。本人・家族とも話し合い、計画に反映している。状態変化時には、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工 夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共 有しながら実践や介護計画の見直しに活か している	漫然とした記録になりやすいのでご本人の言葉をそのまま残すよう話し合いながら、職員全員が利用者各人の状況を把握できるようにするとともに、ケアプランの作成に活かすよう努めている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態が徐々に悪化しているような場合に、今のうちに自宅に外出させたいなど、状況の変化や、ご家族の要望に、柔軟に対応できるように検討している。また、一対一での外出(買い物、喫茶店等)も行っている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	
己	部	2	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域の行事に参加するなどして、地域の人 や場の力の働きかけを借り、安全で刺激の ある生活が行うことできるよう支援している。 また、地域の美容師さんの訪問してもらうな どしている。		
30	(11)	ように支援している	適切な医療が受けられるよう、細心の注意を払っている。ホームの連携医が認知症サポート医であり、協力体制が整っている。できるだけ入院しなくてもよいように、往診での点滴等の配慮をいただいている。	利用開始時に、ホームの協力医を、かかりつけ医に変更する利用者が多い。かかりつけ医は、月に2回の往診と、24時間対応の協力体制があり、適切な医療が受けられる環境を整えている。	
31		や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な 受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名及び非常勤の准看護師3名を配置し、一部介護にたずさわりながら、日々異常の早期発見や必要なケアの提供に努めている。介護職がすぐに看護師や連携医療機関の看護師に相談できる体制をとっている。		
32		うに、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際して、介護情報提供書を提供するとともに、必要に応じて主治医、担当看護師、ケースワーカー等病院関係者と協議し、連携を図っている。また、ご家族と定期的に情報交換を行い、ご利用者の状態の把握に努めている。		
33	(12)	早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時におおよその方針を説明し了解を得るとともに、段階ごとに主治医と相談しながら慎重に進めている。主治医と家族を交えて話し合ったり、職員間でのミーティングを行ったりと慎重に対応している。また、急逝されることもあるため、予めご家族といろんなケースの話をしている。	重度化対応は、法人で対応できない医療行為が必要になった場合は、他の施設や病院へ移ってもらう方針としている。終末期対応は、段階的に話し合い、関係者で方針を共有している。自然な看取りについては、家族の希望を確認し、医師と連携して応じる体制である。	
34		の職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身に付けている	随時訓練や勉強会を行っているが、さらに対 応力を高めていく必要がある。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に、地域自治会代表や近隣 住民代表に参加してもらっており、夜間も含 めた防災訓練等を通じて、災害時の協力体 制について協議を行っている。また、災害に 備えて、一定の食料、オムツ等を備蓄してい る。	年2回の消防訓練は、近隣住民や地域代表者も参加して実施している。訓練は、避難誘導・通報・ 夜間を想定した訓練になっている。また、職員間 の連絡網や避難場所も訓練の中で確認してい る。	

自己	外	5ル 7小 五型の至い日民	自己評価	外部評価	
	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			排泄介助時の声の大きさや声かけの仕方に 関しては、ミーティングの際に注意喚起を継	利用者一人ひとりの人権や尊厳を守り、誇りを損ねない言葉かけをしている。大きな声を出さないことや、名前の呼び方、居室への入室には、許可を得ることに配慮している。	日々の声かけでは、馴れ合いになら ないように、常に意識し、チームとし ての取り組みに期待したい。
37		り、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物等、何種類かの中から好きな物を選べるようにしたり、合唱の選曲、レクリエーションの内容等、日常の場面で自己決定出来るよう工夫している。		
38		している	自室の掃除機かけや、廊下のモップかけ、 食器の後片付け等その人らしい日常のペー スを大切にしている。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	地域の美容師を専属に依頼し、本人の好みに応じた対応を行っている。時には、マニキュアを楽しんだりもしている。服やウィッグなど、ご本人が大事している物は、職員も丁寧に扱うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が 一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じた食事に向かう楽しみの支援を行っているが、食事介助を要するご利用者が増えたため、職員が一緒に食事をとることは困難になっている。又、当ホーム農園の野菜収穫を行い、新鮮な野菜を調理し、食卓に並べ皆で味わう。	利用者に合わせた食形態を、手づくりの料理で提供している。介助の必要な利用者が増えた中でも、穏やかに、一口ひと口の経口摂取を大事にしている。ホームで取れた季節の野菜が食卓を潤し、楽しい話題で弾んでいる。	
41		り、日頃に心じに又張さしている 	食事の摂取量や、水分摂取量、体重の推移 等を記録に残し把握している。また、可能な 限り経口摂取できるように、きざみ、ペースト 等の食事を提供し、時間をかけて介助して いる。また、野菜の種類を多くして、彩りに配 慮している。		
42			各人の能力に応じて、毎食後口腔ケア、義 歯洗浄等行っている。		

自	外	フルークボーム型の主に自民	自己評価	外部評価	
2	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かし て、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支 援を行っている	ご利用者の便意の訴えには、すぐにトイレ誘導を行っている。また、可能な限り布パンツの使用してもらっているが、紙パンツや紙おむつをしている方にも、できる限りトイレで排泄できるように声かけし、歩行訓練を兼ねトイレ誘導を行っている。	排泄パターンを把握し、できるだけトイレへ誘導し、排泄の自立に努めている。紙パンツや紙おむつの人でも、こまめに声をかけ、トイレで排泄できるようにしている。常に、気持ちのよい状態が続くように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動等を行っているが、重度の方、薬の副作用や消化器疾患で便秘の方は下剤や浣腸に頼らざるを得ないこともある。テーブルにポット置き、好きな時間にお茶を飲むことができるようにしつつ、多めの水分摂取を促している。		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入 浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時 間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援 をしている	基本的には決まった日時となっているが、本 人の希望があれば、この限りではない。毎日 入浴を希望されるご利用者には、毎日声か けをしている。	週3回の入浴日を定めているが、希望者は毎日でも入浴できる。車イスや重度の利用者への入浴介助は、2人の職員で介助している。入浴の心地よさを感じてもらうために、急がず、ゆったり時間を掛けている。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れ るよう支援している	自室で休みたいなどの要望には、随時対応している。快適な空調とし、夜間でも自由に水分摂取ができるようにするなど配慮している。夜間はスタッフが空調に気を配り、タイマー等で調節している。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的には看護師が管理しており、症状の 変化、副作用の出現については主治医に連 絡している。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援 をしている	毎日の生活の中で、体操、自家菜園の野菜の収穫、ぬりえ、折り紙、カルタ、回想法、散歩、誕生会など実施している。その他にも、節分、苺狩り、梅ちぎり、花火見物、紅葉狩りなど四季折々の行事行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に 出かけられるよう支援に努めている。又、普 段は行けないような場所でも、本人の希望を 把握し、家族や地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している	自立度に応じて、散歩、日光浴、買物、ドライブ、喫茶店など、出来る限りの外出支援をしてきたが、重度化に伴い困難になってきている。1対1の外出も行っているが、人手の確保等の問題もあって、月に1~2回が精一杯である。	利用者の体調や天候に合わせ、買い物や近隣の神社に散歩に出かけている。重度の利用者は、玄関前の入り口で、夕暮れの山の風景を眺めたり、外気浴を楽しんでいる。絵手紙展やイチゴ狩りにも全員で出かけている。	

" 又干	· 71\	グルーノ小一ム虹の里伊日民			
自己	外	項目	自己評価	外部評価	
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意の上で、ホーム側で管理しているおこづかいの他に、各人の希望に合わせ個人管理のお金を持っている。外出時の買物等で本人で支払いができるように支援している。		
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	自立度の高い方の中には、携帯電話を持ち 込んで自由にかけられる方もいる。また、家 族に連絡したいとの希望には、その都度対 応している。親戚や友人等外部から電話が あった場合、取次を行う。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快 や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、 温度など)がないように配慮し、生活感や季 節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	もに利用者の反応もよく、一緒に水やりして 成長を楽しみにしている。また、ホールに花	廊下に職員の家族の描いた書が展示してあり、 家族ぐるみでホームを支えている。窓越しに、夏 の暑さを防ぐ、アサガオを育て、節電にも役立て ている。共用の場所には、季節の花や観葉植物 を置いて、居心地よくゆったりと過ごしている。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合っ た利用者同士で思い思いに過ごせるような 居場所の工夫をしている	自室とホールを自由に行き来できるようにしている。また、外のベンチで気の合うご利用者同士がゆったり過ごされることもある。		
	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	できるだけ、使い慣れた物やなじみの物、ご 家族の写真等を居室に置いて頂けるよう、 ご家族に協力を求めている。	居室には、家族の写真を飾り、以前に使用していた馴染みの家具が置かれている。家族と協力して、家具の配置など、利用者の希望に応じた個性のある居室となるよう工夫している。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立 した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレの位置が分かるように張り紙をして工夫している。洗濯も、職員の見守りの下、時には声かけしながら、自力でできるように支援している。ソファーの上に立ち上がるなどの行為があるため、位置を変えるなどして安全確保に努めている。		